

ニュース 世界から

アジア 立ち話



環境教育NGOの支援で昨年まで日本に6年間留学していたティロウ・タリアさん(21)は「日本でツバルというと『海面上昇で沈む島』の話題ばかり。美しい海や人とのつながりを大事にする文化などをもっと知っ



映像を建物に投影する「プロジェクションマッピング」のイベントをシンガポールで開いたアーティストで、京都大学情報メディアセンター教授の土佐尚子さん(52)。いけばなをモチーフにした色とりどりの映像

ツバル 文化など知って

日本では春に花見をし、セミの鳴き声で夏の到来を感じるなど「自然を味わう文化」に感動。ツバルでは「(四季がない上)自然が当たり前すぎて何とも思わない」のだそうだ。今後は母国の学校で日本での経験を紹介したいと語る。太平洋戦争で日本軍がツバルを攻撃した歴史だけでなく「日本のいいところも伝えたい。折り紙も教えたいな」。

(フナフティ共同)

街の風景「変えたい」

市街地での大掛かりな投影は、地元当局や警察との粘り強い折衝が不可欠。しかし、それを乗り越えることで「アーティストだけのアートから、皆のアートに変わる」とやりがいを感じている。(シンガポール共同)

が大音響とともに浮かび上がり、通行人を魅了した。「シンガポールの風景を変える不思議なものを見せたかった」。感情、記憶、民族性など人間が蓄えてきた文化を表現してきた。次は香港で披露する計画だ。

応募先: keitai@mb.kyoto-np.co.jp

なご。

昔から「遠くの親戚より

国際底流

国連幹部の不正行為を2007年に内部告発した後、警察部門による拘束と家宅捜索を受けた元国連幹部の米国人男性が15日までに共同通信の取材に応じた。報復に激しい屈辱を感じたと当時の状況を詳述し、内部告発者の保護を求め日本を含む加盟国による国連への圧力を求めた。

男性は国連コソボ暫定統治機構(UNMIK)の元幹部ジェームズ・ワサーストロム氏(58)。コソボのエネルギ一開発をめぐる地元政治家や国連幹部が不正な金を得ている疑いがあると監督部に報告した直後に拘束された。

「07年6月1日、最悪の瞬間だった。コソボとアの国境で拘束されに働くこともあり、いた警察官たちにな証を没収され、国連出入りも禁じられたは「この職員のうちじる」という顔写真ターが張られ、職も「コソボの新聞各

国連幹部 不正指摘の男性

報復で



私は雑事に追われながら「老々介護」の日々です。

をかけられました。「ダイコンがあまりにも

かかえ、頂いた